

No. 1054

天皇ご一家

ティグリス文明展へ

天皇、皇后両陛下は3月25日、東京上野の東京国立博物館へおいでになり、皇太子ご夫妻とともに、東京新聞・中日新聞主催の「ティグリス・ユーフラテス文明展」をご覧になりました。先に常陸宮ご夫妻や浩宮さまもご覧になっており、天皇ご一家がこのようにおそろいで展覧会にお出かけになったのは異例のことです。人類最古の文明、メソポタミアの遺宝の数々に両陛下はすっかり魅せられたご様子、日本オリエント学会長の三笠宮さまのご説明にいちいちうなずかれ、熱心にご質問されていました。大理石を刻んだ愛らしい小品にふと足を止められる皇后さま、皇太子ご夫妻も思わず笑顔を交わされるなど、なごやかな美術鑑賞のひとつでした。

盲目の老人たち

ななそじ
七十路の茨の道は遠かりき
のぼりふみ来し 旅をしぞ思う

東京都青梅市根ヶ布。奥多摩の自然に抱かれて盲目の老人だけをあつめた老人ホーム「聖明園」がある。園が創立されて十年、このたび盲目の世界を詩った老人たちの文集が出版された。不安にかられながらここを訪れた老人たち、しかし、そこは暗黒の世界ではなかった。

寮廊下 好み好みの のれんかけ
浮世小路か しのぶ三味の音

廊下には思い思いにかなでる琴、三味線の音が流れ、その音に耳をかたむけながら針仕事にいそしむ老人もいる。それぞれに自らの生きがいを見出し思い思いの時を過す。

八十の 手習い楽し点字打つ
めしいとなりて 初の学びや

点字の学習に喜びを見出し、そして器楽の演奏に生きる道を発見する。

万物は黒一色に変わるとも
音の世界に 生きる道得し

年老いてから盲目となった老人が多だけに心のかげりは大きかった。それが、ここにきて、いつか「聖明園」を楽園と呼び、ばらの園とたたえるようになっていった。一月一度開かれる誕生会。歯のない口を大きく開けて、老人たちは食べ、そして歌う。そこに盲いた者のかげりは見えない。

恵まれし 聖明園に身を寄せて
老の重荷を ここにおろしぬ